

## 各科目群の授業科目の概要

### 総合科目

大学での教育は、狭い範囲の専門知識を習得させることだけを目的としているのではない。幅広い視野、深い思考力、斬新な創造力、そして的確な判断力に基づいて専門知識を主体的に活用できるばかりでなく、幅広い教養をベースに倫理や覚悟を持つ人材の養成を重要な課題としている。

総合科目は、地域志向科目、総合基礎科目と総合テーマ科目の3つの科目群から構成されている。学期を追って、系統的な学修ができるように配置されているので、各個人の関心や学科のどのコースに進路をとるかで補完され、充実した学修が期待できる。専門科目群と有機的に結びつけて欲しい。

地域志向科目では、本学の立地する神奈川の地域の現状・特色・課題などについて様々な角度から学ぶ。神奈川は世界的な国際都市・観光都市・工業地帯を抱えると同時に、関東の代表的な農・漁・山村を抱える、日本の縮図ともいえる多様性ある地域である。この神奈川についての学びを通して、地域社会の多元性に関する理解を深めるとともに、地域の魅力や課題を発見する力を培う。

総合基礎科目では、大学での学修に必要な不可欠な基本的な要素が集中的に学修できる。「パソコン入門」では、学修に必要な不可欠なパソコン操作や情報処理の基礎的能力を身につける。「文章を書く」では、レポートや論文作成の基本となる読解力、理解力、文章作成力、表現力を培う。大学生としての心構えやマナー、大学で学ぶために必要なノートテイキングや図表の活用といったスキル、教養の基本の一つである資料の読み込み、発表、レポート作成などの力を身につける場が「基礎ゼミナール」で、ここでの訓練が後の学修の足がかりとなろう。

総合テーマ科目では、経営学とは異なる学問的視座からさまざまな人間活動に光を当て、複眼的な視点から社会的に提起される問題を学際的に明らかにしてゆく。「問題関心」の高度化を図るべく「心身と社会」「メディアと文化」「人間と環境」「国際化と異文化理解」のテーマごとに「全体の視点」「テーマと関連する問題」「具体的問題」と総体的に深めてゆく。

### キャリア科目

キャリア科目は、関東学院大学の学生として、経営学部の学生として、多様な社会の中で『私』、『私たち』を積極的に位置づけ、そのための現在と未来をデザインする目的で設置されており、[全学キャリア科目]と[学部キャリア科目]に大別される。

[全学キャリア科目]は、全学部共通の内容で、関東学院大学の学生としての現在と未来について考える科目群となっている。詳しくは、「キャリア教育科目について」を参照してほしい。

[学部キャリア科目]は、経営学部の学生として身に着けてほしいキャリアスキルを学ぶ科目群となっている。

### 外国語科目

外国語科目は、異なる価値観を認めながら自分の意見を発表できる人格の形成、及び実用的な外国語運用能力の養成を目的に設置されている。外国語科目は[登録必須英語A][登録必須英語B][選択英語A][選択英語B][英語以外の外国語][外国人留学生選択必修科目]に大別される。

[登録必須英語A]は、1年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。

[登録必須英語B]は、2年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。再履修となった場合は、[選択英語A]および[選択英語B]で代替することができる。また4単位まで[英語以外の外国語]で充当できる。

(2021~)

[登録必須英語A]と[登録必須英語B]は、習熟度別クラス編成により、無理なく各自の英語力を伸ばすことができるプログラムとなっている。1年次はオリエンテーション期間に実施するプレイスメント・テストの結果に応じて、「フレッシュャーズ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」または「フレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)Ⅰ・Ⅱ」と「英会話Ⅰ・Ⅱ」または「英会話(上級)Ⅰ・Ⅱ」(各1単位、計4単位)を履修する。再履修となった場合は、さらに基礎的なことを学ぶ[選択英語A]の「基本英語Ⅰ・Ⅱ」(「フレッシュャーズ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」の代わり)と「基本英会話Ⅰ・Ⅱ」(「英会話Ⅰ・Ⅱ」の代わり)で代替する。

2年次は1年次の秋学期の最後に実施するプレイスメント・テストの結果に応じて、「マス・メディアの英語Ⅰ・Ⅱ」「オーラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ」「国際関係と地域研究の英語Ⅰ・Ⅱ」「言語と文学の英語Ⅰ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「上級英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」より4科目(各2単位、計8単位)を履修する。基礎的なことを学びたい場合は、「選択英語A」で代替することができる。ただし、「登録必須英語A」の代わりに履修した科目以外の科目とする。

[選択英語B]は、各自の興味・関心、ニーズに応じて、1年次から4年次まで履修することができる。1、2年次に[登録必須英語A]や[登録必須英語B]と並行して履修し、さらに卒業要件最低単位数を満した後も3、4年次に履修し続けることで、卒業まで語学力を伸ばし続けるよう心がけて欲しい。

[英語以外の外国語]ではドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハングルを学ぶことができる。各々の言語に「〇〇語入門Ⅰ・Ⅱ【※スペイン語、中国語、ハングルのみ】」「〇〇語会話入門Ⅰ・Ⅱ」(各科目1単位)「実用〇〇語Ⅰ・Ⅱ」(各科目2単位)がある。初心者には、「〇〇語入門Ⅰ・Ⅱ」「〇〇語会話入門Ⅰ・Ⅱ」のうち1科目以上を履修した後、「実用〇〇語Ⅰ・Ⅱ」を履修する。なお、卒業要件外国語12単位のうち4単位までを[英語以外の外国語]で充当することもできる。ただし、1年次配当分の[登録必須英語A]の4単位については、[英語以外の外国語]で代替することはできない。

[外国人留学生選択必修科目]では、卒業要件として規定されている外国語12単位の代替科目として、「日本語理解Ⅰ・Ⅱ」「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」(各科目1単位)と「論文・論説の日本語Ⅰ・Ⅱ」「日本語・言語と文化Ⅰ・Ⅱ」(各科目2単位)を用意している。ただし、外国語12単位すべてを[登録必須英語A][登録必須英語B]で充当することができる。[登録必須英語A]は[選択英語A]で、[登録必須英語B]は上記以外の[選択英語A]と[選択英語B]で代替できる。

## 経済学・法学科目

経済学科目には、経営学を学ぶ上でも最低限必要な基礎科目として「経営のための経済学」を置いている。経済状況の捉え方、金利や賃金、商品・サービスの価格決定など、経営学を学ぶ上で必要な経済学の基礎を学ぶことができる。

法学科目は、その名称が示すように、実定法の各分野に照応している。わが国の法の基本的な骨組みをなす6つの法典、すなわち、憲法、民法、会社法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法のうち、経営学と関連の深い「会社法」と「民法」については一通りの知識が得られるようになっている。その上、企業活動に深く係わりをもつ行政、労働関係の法規についても学ぶことができる。

これら法学科目の履修について、一般的なものから特殊なものへという伝統的な学び方が正しいとすれば、まず基礎的な法の分野を対象とする「民法」「会社法」、次に「行政法」「労働法」を学ぶことになる。また、企業経営との関連性という観点からすれば、「会社法」を中心として、「労働法」「民法」「行政法」を各自の関心に応じて履修することも考えられる。

## 経営学科目

《経営学科のコース制について》

経営学科目には、専門分野のコース<専門分野2コース>としてビジネスリーダーシップコース、流通マーケティングコースという2つのコースがある。経営学科の学生は2年(3セメスター)進級時にいずれかのコースを選択し、2年(3セメスター)以降4年(8セメスター)まで

3年間各コースで勉強することになる。＜専門分野2コース＞は、卒業の要件も異なる。それぞれの経営学科目については、「Ⅲ. 授業科目の構成」の科目区分表を参照すること。

経営学科目は、コースに沿って配当されている。つまり「大学を卒業したらどのような職業に就くか」を考え、希望する職業に就くためには「大学でどのような科目を・どのような順序で勉強するか」が、はっきりとわかるように科目が編成されている。これによって、学生は目標をもって、基礎的な科目から応用的な科目へ、順序よく体系的に勉強できるようになっている。

経営学科目は、基本科目、応用科目、コース科目、実践系科目と会計人材育成プログラム科目との5つに大別される。

#### 【基本科目】

基本科目は、2年生になってどのコースを選択するとしても経営学科の学生として必要な科目である。卒業要件としては、基本科目から26単位を修得する必要がある。

基本科目は、1~8セメスターに配置されている「現代企業Ⅰ・Ⅱ」、「現代流通Ⅰ・Ⅱ」、「簿記Ⅰ・Ⅱ」と、2~8セメスターに配置されている「経営管理Ⅰ・Ⅱ」、「マーケティングⅠ・Ⅱ」、「会計Ⅰ・Ⅱ」、「原価計算基礎」、「コンピュータとインターネットⅠ・Ⅱ」、「経営情報システムⅠ」、「経営戦略」、「経営組織」の18科目からなり、これらの科目は、「基礎の基礎」となる重要な科目である。

また、基本科目内に「K-biz ベーシックⅠ」、「K-biz ベーシックⅡ」を配置している。これらの科目は、企業や社会が抱える問題を発見しそれを解決するビジネスプランを作成するための科目である。

「K-biz ベーシックⅠ」は、1年次春学期に開講される登録必須科目であり、ビジネスプランを作成するために必要最低限の知識を学習する科目である。

「K-biz ベーシックⅡ」は、1年次秋学期に開講される、少人数のゼミナール形式で学んでいく登録必須科目である。所属するクラスは、基礎ゼミナールと同じ曜日・講時に開講されているクラスとなる。

「K-biz ベーシックⅡ」では、学生を複数のグループに編成し、「K-biz ベーシックⅠ」で学習した内容を基にグループ単位でビジネスプランを作成する。そして、学習の成果を学期内に2回開催される発表会に参加して発表する。発表会は、複数のクラスが合同で、プレゼンテーション形式で開催される。これら発表会へ参加する準備も「K-biz ベーシックⅡ」内で行う。

「K-biz ベーシックⅡ」の目的は、「K-biz ベーシックⅠ」で学習した内容を基礎としグループワークによるビジネスプランの作成を通して、主体性・自主性・協調性を身につけ、この経験や反省、気づきを2年次以降の理論的学習や実践的学習に活かすことにある。また、「K-biz ベーシックⅡ」では、グループワークや発表会においてそれぞれの役割をしっかりと果たすことが評価の前提となるので、発表会も含めて毎週の授業に出席し、活動に積極的に参加することが強く求められる。

#### 【応用科目】

応用科目は、基本科目を受けて3~8セメスターに配置される、「基礎の発展」という位置づけの科目である。

#### 【コース科目】

コース科目には、学生が選択したコースについて系統的に学習し、各コースの教育目標が達成される科目が配当されている。

## ＜専門分野2コース＞

### 《ビジネスリーダーシップコース》

事業活動を長期安定的に継続しさらなる成長を目指すための経営戦略を企画・創造する知識・技術を修得し、良き企業人として必要なリーダーシップ力、意思決定力、判断力を持った人材を育成するコースである。

組織の中でリーダーシップを発揮し新戦略を企画・立案するための組織運営のあり方、財務・経営情報のノウハウを修得し、問題解決能力の向上を図る。実践ビジネス科目を中心に、主体的な学びを通してリーダーシップ力を身につけると共に、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養する。

コース科目として、3～8セメスターに、「戦略とイノベーション」、「組織とイノベーション」、「ベンチャービジネスⅠ・Ⅱ」、「人的資源管理」、「経営財務」、「経営倫理」、「経営分析Ⅰ・Ⅱ」、「スポーツ・マネジメントⅠ・Ⅱ」、「意思決定会計」、「サービス経営」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、製造・流通・サービス企業一般の総合職、経営コンサルタント等経営をサポートする仕事、起業家・事業後継者等がある。

### 《流通マーケティングコース》

消費者ニーズの捕捉、商品・サービスの企画・提供から消費者への訴求、効率的な流通ネットワークの構築、情報技術の活用に至るまで、流通・マーケティングや観光・ホスピタリティのマネジメントに関する総合的な知識を修得し、流通・マーケティング、観光・ホスピタリティの分野でリーダーシップを発揮できる人材を育成するコースである。

マーケティング関連科目と流通関連科目を中心として、流通・マーケティング・マネジメントに関する総合的な知識の修得を図る。さらに、主体的な学びを通して、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養し、リーダーシップ力を身につける。

コース科目として、3～8セメスターに、「マーケティング・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「流通システムⅠ・Ⅱ」、「国際マーケティングⅠ・Ⅱ」、「ブランド・マネジメント」、「ロジスティクス」、「現代ツーリズム[観光]Ⅰ・Ⅱ」、「交通サービス」、「ホスピタリティ・マネジメント」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、民間企業の商品企画・開発・広報担当者、行政や商工会議所でまちづくりを支援する部門、広告代理店、中小企業を対象とした経営支援等がある。

#### 【実践系科目】

実践系科目には、より実践的・実務的な観点から主体的な学習を促進するためにビジネスについて実践的に学べる科目や現代のビジネスに関することが学べる科目と資格取得に関わる科目という3種類の科目が用意されている。

ビジネスについて実践的に学べる科目は、ビジネスの現場で起こっていること、起こりそうなことに対して、どのように対処するかを主体的に考え、発表する場を提供する科目である。主体的に学習し発表するためのスキルを身につけ主体的な学習の機会を提供する科目として、3～8セメスターに、「プレゼンテーションスキル」、「資料・データ分析スキル」、「ビジネスプラン」、「神奈川の中小企業」が配置されている。

「ビジネスプラン」と「神奈川の中小企業」は、高度なビジネスプランの作成や神奈川の中小企業の経営戦略とビジネスモデルを実践的に学ぶ科目である。

現代ビジネスに関する科目は、ビジネスの現場でどのようなことが起こり、それに対してそこで働く人々が何を考えどのように対処してきたかを学習する科目である。この他に、「中小企業後継者育成実践講座」、「事業革新と事業計画」、「資本市場の役割と証券投資」が配置されている。

資格取得に関わる科目は、その名の通り資格取得を目的とした科目である。それぞれの資格に関連した実務的な知識や能力を身につけることによって、将来の進路決定にもプラスの影響を与えることが期待される。資格取得に高い意欲・関心を持っている学生は多いと思われることから、「販売士Ⅰ・Ⅱ」、「ITパスポートⅠ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランナーⅠ・Ⅱ」、「旅行業務取扱管理者」、「証券アナリスト」が配置されている。

### 【会計人材育成プログラム科目】

会計人材育成プログラム科目は、税理士、公認会計士等の資格取得と税務・会計の専門知識を活かした職業に就くことを目指す学生への特別な科目群である。1～8セメスターに「簿記および演習Ⅰ・Ⅱ」、「簿記検定(2級)」を配置し、日商簿記2級の資格取得を目指す。3～8セメスターに、「連結会計」、「財務会計基礎Ⅰ・Ⅱ」、「財務会計応用Ⅰ・Ⅱ」が配置され、簿記1級や税理士資格を目指せるようになっている。

## 専門ゼミナール

ゼミナールは、少人数の学生に限定して行われる演習である。学生は2年次(3セメスター)春学期に各ゼミナールの募集に応募し、卒業までの期間、いずれかのゼミナールに継続して所属する。ゼミナールの選択はコースに関係なく、すべてのゼミナールの中から自分の希望するゼミナールを選択できる。しかし、ゼミナールには定員(15名程度)があり、希望者が多い場合には選考がおこなわれ、所属を認められない場合もある。選考は面接の他、1年次の成績などが参考にされる場合もあるので、1年次の科目履修は十分に注意する必要がある。

ゼミナールⅠは登録必須科目であり、必ず履修登録をしなければならない。つまり、必ずいずれかのゼミナールに所属しなければならない。もし、選考によって所属ゼミナールが決まらなかった場合は、抽選により所属先が決められる。

ゼミナールでは学生は週1回のゼミナールに参加して、テキストを読み、またそれぞれの課題について資料の整理や分析を行い、4年次には卒業論文作成をするなどの活動を行う。ゼミによっては各種の課外活動やゼミナール大会に参加する。このようにゼミナールには2年半所属し、自分の興味に応じたより深い勉強をおこなう場であることから、経営学部における教育・研究の中心的存在であるといえる。

## 履修科目決定モデル

### 1. はじめに

大学では、一定の条件はありますが、高校までとは異なり、勉強しようとする科目を自由に決めることができます。しかし、自由に選択しなさいと言われても、どうすればよいのか分からないという学生が多いので、1年次生のために履修科目決定モデルを作りました。これを参考にしながら、『履修要綱』にしたがってあなたの履修科目を決めてください。

### 2. 経営学部

#### (1) 履修科目決定のポイント

①春学期は1セメ配当および1-2セメ配当、1-8セメ配当、秋学期は1-2セメ配当および1-8セメ配当、2-8セメ配当科目を履修できる

②春学期、秋学期とも最大で22単位まで履修できる

③クラス指定された科目（登録必須科目）を軸にする

クラス指定された科目は、必ず履修しなければならない科目です。KGUポータルへログインし、画面上部メニューから『履修時間割』を確認すると各自のクラスが記載されています。

| ○ 20xx年度 春学期 時間割 |                |                          |                         |                                       |   |   |
|------------------|----------------|--------------------------|-------------------------|---------------------------------------|---|---|
|                  |                | 春学期                      |                         | 秋学期                                   |   |   |
|                  | 月              | 火                        | 水                       | 木                                     | 金 | 土 |
| 1                | KGUキャリアデザイン入門Ⅰ |                          | K-biz ベーシックⅠ<br>(松下 将章) |                                       |   |   |
| 2                |                | 基礎ゼミナール<br>(渡辺 竜介)       |                         |                                       |   |   |
| 3                |                | 英会話(中級)Ⅰ(営A)<br>(中原 功一朗) |                         |                                       |   |   |
| 4                |                |                          |                         | フレッシュヤーズ・イングリッシュ(中級)Ⅰ(営A)<br>(中原 功一朗) |   |   |
| 5                |                |                          |                         |                                       |   |   |

<科目の名称について>

マーケティングⅠ A  
└──────────┘ └──┘  
科目名                      クラス名

④専門科目は、基本科目を優先する

専門科目については、1セメ(1年次春学期)、2セメ(1年次秋学期)ともに、基本科目を優先して履修します。

⑤総合科目は、1セメは総合基礎科目、2セメは総合テーマ科目を優先する

卒業要件を満たすためには、専門科目だけでなく、総合科目も履修しなければなりません。1セメは総合基礎科目を、2セメは総合テーマ科目を優先的に履修すると良いでしょう。

## ⑥春学期をベースに秋学期を考える

春学期は、自らの興味関心を考えつつ、クラス指定科目を軸に、その前後の時間帯に、専門科目や総合科目を配置しながら時間割を組みます。秋学期は、春学期に履修した科目と同じ曜日・講時にあたる科目を選択すると時間割を組みやすいといえます。春学期に履修した科目の担当者は秋学期も同一曜日講時に別の科目を担当していることが多いので、その科目を履修すると良いでしょう。例えば、春学期に月曜5講時の「簿記ⅠC」(A先生)を履修した場合、秋学期も同じ月曜5講時の「簿記ⅡC」(A先生)を履修するといったイメージです。もちろん、春学期、秋学期で全く別の科目を履修しても構いません。例えば、春学期に月曜5講時の「簿記ⅠC」(A先生)を履修して、秋学期は火曜2講時の「簿記ⅡD」(B先生)を履修するといったことも可能です。

※「簿記ⅠA」「簿記ⅠB」などの科目名の後のローマ字は同じ科目ですが、クラスが異なることを意味します。

## ⑦1日の履修科目数は3科目前後にする

大学の授業は、予習復習を前提に成り立っていますので、1日にあまり多くの科目を履修するのは好ましくありません。クラス指定科目の配置にもよりますが、1日3科目程度を目安にすると良いでしょう。

### (2)履修科目決定ステップ

#### ①春学期

##### 〔ステップ1〕クラス指定科目

経営学部は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目を履修登録すると、春学期に6科目8単位の履修科目が決定します。

##### 【春学期】 合計8単位

- ・英会話Ⅰまたは英会話(上級)Ⅰ (1単位)
- ・フレッシューズ・イングリッシュⅠまたはフレッシューズ・イングリッシュ(上級)Ⅰ (1単位)
- ・基礎ゼミナール (2単位)
- ・KGUキャリアデザイン入門Ⅰ (1単位)
- ・KGUキャリアデザイン入門Ⅱ (1単位)
- ・K-biz ベーシックⅠ (2単位)

##### 〔ステップ2〕経営学科目の基本科目

次に、1セメスターから開講されている基本科目を選択しましょう。経営学科目では「基本科目」として「現代企業Ⅰ」、「簿記Ⅰ」、「現代流通Ⅰ」の3科目が開講されています。基本的には、これら3科目6単位を履修するとよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、「簿記Ⅰ」ではなく「簿記および演習Ⅰ(3単位)」を履修することが望ましいでしょう。なお、「簿記Ⅰ」と「簿記および演習Ⅰ」の同時履修はできません。

##### 〔ステップ3〕総合基礎科目

総合科目の「総合基礎科目」の中で興味のあるものを、春学期に開講されている科目から3科目選択してみましょう。なお、1年生のみの開講科目である、「文章を書く」と「パソコン入門」は今後の学習を円滑に進めるためにも、ぜひ履修して欲しい科目です。

※上記〔ステップ3〕までで、春学期20単位が決まりました。残る2単位は「地域志向科目」を履修してみましょう。「地域志向科目」は、本学が立地している神奈川の地域の現状や特色、課題などについて様々な角度から学ぶことができます。卒業までに必ず2単位を修得しなければなりませんので、1年生から履修しましょう。また、語学に興味がある方は、第二外国語を履修してもよいでしょう。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際には、ここまでで20単位分履修できないこともあるでしょうから、その部分については、『履修要綱』の「経営学部 科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、〔ステップ3〕までで春学期21単位が決まりました。「地域志向科目」や「第二外国語」などの1単位の科目を履修して22単位まで履修しましょう。

## ②秋学期

### 〔ステップ1〕 クラス指定科目

経営学部生は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目を履修登録すると、秋学期に3科目4単位の履修科目が決定します。

#### 【秋学期】 合計4単位

- ・英会話Ⅱまたは英会話（上級）Ⅱ （1単位）
- ・フレッシューズ・イングリッシュⅡまたはフレッシューズ・イングリッシュ（上級）Ⅱ （1単位）
- ・K-biz ベーシックⅡ （2単位）

### 〔ステップ2〕 経営学科目の基本科目

次に、経営学科目の基本科目を選択しましょう。経営学科目では「基本科目」として「現代企業Ⅱ」、「簿記Ⅱ」、「現代流通Ⅱ」、「経営管理Ⅰ」、「原価計算基礎」、「会計Ⅰ」、「コンピュータとインターネットⅠ」、「コンピュータとインターネットⅡ」、「マーケティングⅠ」、「経営組織」の10科目が開講されています。これら9科目の中から春学期に履修した科目のペア科目（「現代企業Ⅱ」、「簿記Ⅱ」、「現代流通Ⅱ」）を中心に、5科目10単位分を履修するとよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、「簿記Ⅱ」ではなく「簿記および演習Ⅱ（3単位）」を履修することが望ましいでしょう。「簿記および演習Ⅰ」を履修した学生は、「簿記Ⅱ」を履修することはできません。

### 〔ステップ3〕 総合テーマ科目

総合科目の「総合テーマ科目」の中で興味のあるものを秋学期に開講されている科目から3科目6単位、選択してみましょう。

※上記〔ステップ3〕までで、秋学期20単位が決まりました。残る2単位は、「キャリア科目」、「基本科目」、「総合基礎科目」、「総合テーマ科目」の中から『履修要綱』の「経営学部 科目区分表」を見て、1年次に配当されている科目のシラバスを読んで受講したいと思った科目を履修しましょう。春学期に第二外国語を履修した場合は、春学期に履修した科目のペア科目を履修するのもよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、〔ステップ3〕までで秋学期21単位が決まりましたので、春学期同様に「地域志向科目」や春学期に履修した「第二外国語」のペア科目などの1単位の科目を履修して22単位まで履修しましょう。